活動スケジュール

進行管理を実施し、 定期的に把握・評価を 行いながら 取組みの改善点を 明らかにして、 次の推進に努めます

キーワード生生生居安・安析級

H26 H27 H28 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026 第2次 5カ年計画 第1次計画 まもろう花田・夢プラン はなふく計画会議 はなしあおうなかまひろがるだいじなまち 2 カ年 - 甘 呂 → 開出今 ← 蔵の町 → 2025 2021 2026 2023 P 計画を立てる はなふく計画会議 1回/約3ヵ月 適時 C 結果を だれでもわかる推進体制と活動内容企画 はなふく計画会議の役割 評価する 各町GG大会 3町合同GG交流会 D 3町合同ウォーキング大会 結果の見直し 防災マップ 3町合同災害時避難訓練 竹林愛護会活動 新たな行動 **— 生活おたすけ隊 ——— 送迎ボランティア -**

課題 ①広報による周知徹底で周辺組織・住民の理解と協力 ②住民参加と活動の継続



安心して暮らせる花田地区のまちづくりについて話し合い、教え合い、考えた「はなふく計画会議」のみなさんです。















策 定:はなふく計画会議

編集・発行:花田地区社会福祉協議会

社会福祉法人彦根市社会福祉協議会

この計画書は、 / 「赤い羽根共同募金」の助成金で作成してます。

2022年度>>>2026年度

花田地区住民福祉活動計画

『住民福祉活動計画』とは・・・ 自分たちの住む町の生活・福祉課題に 関心を持ち、町の特性を生かして 福祉活動・まちづくりを進める 住民みなさんの話し合いによる 活動計画です。





















この計画は『はなふく計画会議』で作成しました。

メンバーは花田地区(開出今、甘呂、蔵の町) 自治会長、民生委員、 住民有志、地域包括支援センター、市社協担当者など24名です。 5年後、10年後、20年後の花田地区の特性・住民生活を想像し 住民の福祉向上のため9回の話し合いをかさねて作成しました。

見守りあい・支えあい・助け合いが 計画の基本理念 ぶだんのくらしのしあわせ(福祉)をつくる

活動の目標 (ありたい姿)

ぶだんのくらしのしあわせを感じるまち、住みたいまち、 住んで良かったまち、みんなで考え行動する町にしよう



住民を取り巻く現状から 将来予想される心配な状況について話し合いました

人口減少社会 超高齢化の進行 生産年齢人口の減少 少子化のさらなる拡大



コロナ禍でさらに深刻に なることが予想されます



こどもが少ない・いない

安全・安心の確保心配

空家増加 行政サービスの限界、転嫁

自治会役員、世話役の高齢化

担い手不足 8050、8060問題 買い物難民

孤立 独居 ヤングケアラー

老々介護

共助活動への無関心 介護難民

移動手段少

竹林愛護会活動

フリーマーケット併設

居場所不足

認認介護

災害時の無力化 自助活動への無関心

こんなときこそ住民の交流の場が必要です⇒情報の共有化が大切になります

福祉向上に必要な実践的取組みを具体的な活動案にしました

住民交流の場づくり

グラウンドゴルフ 3 町GG交流会

各町GG大会

実践取組みの方向性

自分らしさの認め合い、 一人ひとりの活躍

相談する場所がある

相談にのって「れる人がいる

防災に強い地域づくり、 防災力・対応力の向上

相談しやすい地域、

困りごとを放って おかない地域

地域福祉の推進、 利便性と安心の充実 例)ITの活用



3町合同災害時避難訓練 独居名簿 "近助"情報 防災マップ

自助 互助 公助 生活おたすけ隊

送迎ボランティア

3町合同ウォーキング大会

自治会活動 民生・児童委員 社会福祉協議会

地域包括支援センターきらら はなふく計画会議







福祉向上のキーワードは生活、居場所、安全・安心、人権、組織です

活動

目標

具体的活動案

コロナの影響でこもっている

安心・安全な暮らし

少子・高齢化

交流の場が

少なくなっている

核家族で

地域との 交流が少ない

キーワード

生活 居場所

安全・安心

権

組

ありたい姿

世話人の育成

住民の理解・協力 どんな町にしたいかを話し合っている

みんなの困りごとを知ってる

みんなに役割がある

広報



- "助けてと言える"関係がある
- いつでも、いつまでも支えあい、 助け合うことができる
- 安心・安全に暮らし続ける ことができる



実践取組み活動をするためには 周辺組織・住民の理解と連携・協働 が大切です